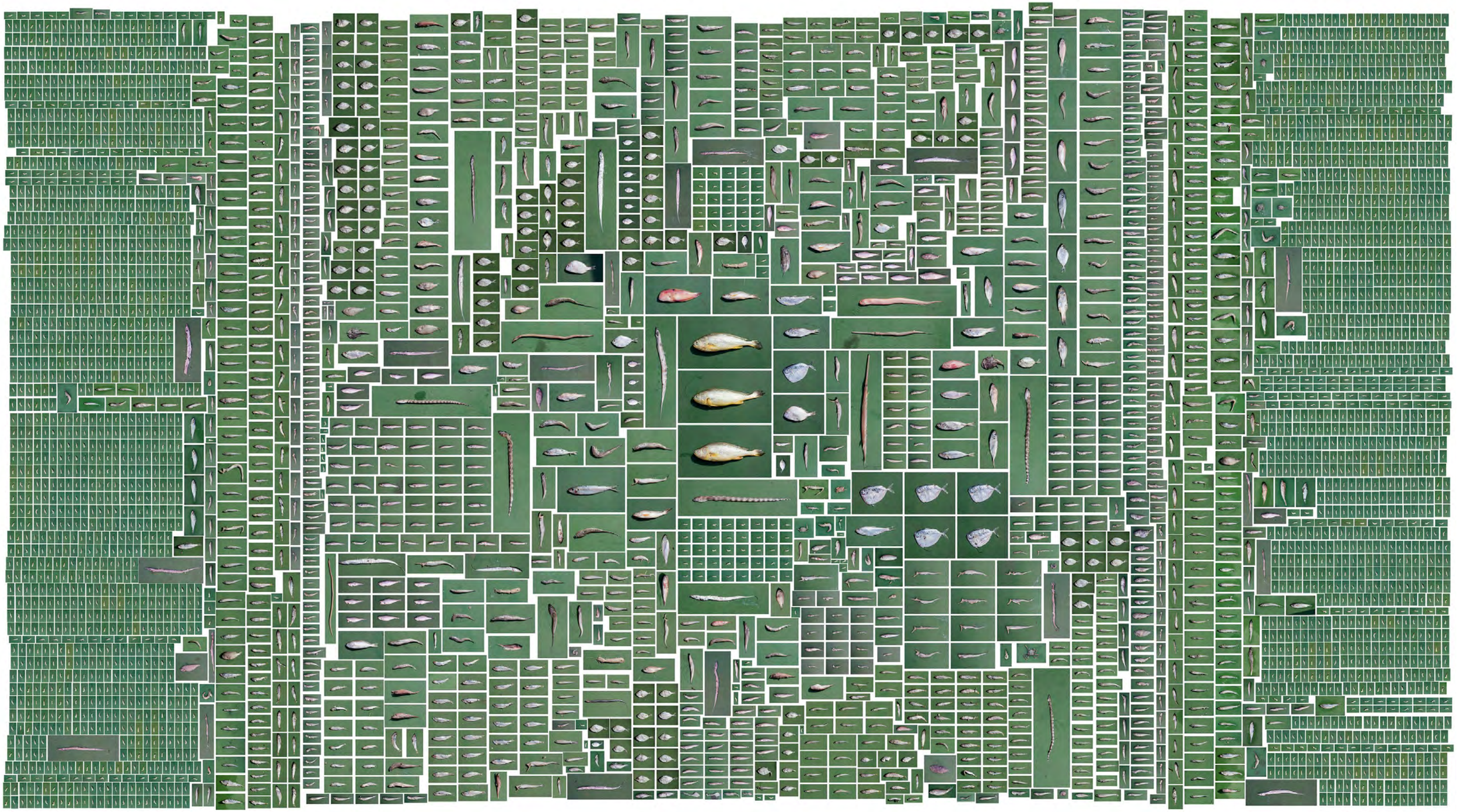

© Chow and Lin

Chow and Lin チョウ・アンド・リン

アートが呼び起こす連鎖反応

チョウ＆リン＝文　Text: Chow and Lin

私たちの作品は、統計学的、数学的方法論や計算を扱いながら国際問題について言及しています。人間を中心とした地球規模の問題に焦点を当て、視覚芸術を用いて、現代における重要なトピックについての対話の場を提示します。そうすることで写真は、現実に対する認識や固定概念、分析に対する問いを生み出す視覚言語となるのです。

「平等性（Equivalence）」とは、私たちが発想したコンセプトで、いくつかの派生したシリーズによって構成されています。本作の根底にあるのは、より深い問題をほのめかす割れ目を見つけ出せるような、一見平等に見えるもののダイナミズムへの問いです。

掲載作品「Equivalence - The Ecological Footprint of Fish」では、フウセイという魚を通して、中国の養殖産業が自然環境にもたらす影響を考察しました。非政府自然保護団体と共に取り組んだプロジェクトです。

中国は世界最大の漁業・養殖生産量を誇り、世界で生産される魚介類の6割以上を占めています。 また、魚介類の消費量が一番多い国でもあります。魚の消費量が増え、需要が高まると共に乱獲が進み、かつては天然魚として捕獲されていた魚種も、いまでは養殖されています。本プロジェクトをスタートした2017年当時、中国で養殖された76%の魚介類は、くず魚（トラッシュフィッシュ）を餌としていました。くず魚とは、現地の言葉で、漁港で売れ残った魚を指します。これらは、商業価値のない魚の混合なのですが、その中に販売禁止の魚種の稚魚が含まれてしまうことは見過ごせません。これによって脆弱で絶妙なバランスの上に成り立っていた海洋生態系は、天然魚の乱獲に加え、養殖産業からの影響も必然的に受けているのです。

本作では、中国の一般家庭で最も消費され、最も大量のくず魚を餌として養殖されるフウセイを被写体に選びました。1970年代、乱獲によって同種の天然個体数は激減し、絶滅の危機に瀕していました。そこで中国政府は、フウセイの養殖に力を入れることで天然魚の数を増加させ、1990年後半からは商業目的の養殖かごを用いた大規模な生産を始めています。いまでは福建省、広東省、浙江省、山東省の海沿いで集中的に養殖が行われており、2019年には19.8万トンのフウセイが養殖されました。

私たちは環境NGOのグリーンピース、研究者、漁業専門家、養魚場で働く人々、地元の漁師たちと協力し、綿密なリサーチを元に計画を立ててプロジェクトをスタートさせました。中国国内の養殖フウセイの生産量83%を占める、寧徳を含む福建省の海沿いの町を訪ねました。この魚の成長と養殖方法を研究し、1キロのフウセイを幼魚から販売可能な成魚まで育てるためには、7.15キロのくず魚が必要なことがわかりました。その後、研究者と共に現地の漁港を歩き回り、3匹のフウセイ、そして7.15キロ分のくず魚（39種4,136匹）を集めました。その後、漁村にあったバスケットボールコートで一匹ずつ撮影し、最終的には写真のみならず、動画作品としても発表しています。3匹のフウセイの写真を中央に配置し、4,136匹のくず魚の写真をモザイク状に並べた掲載作品は、本作のメインイメージです。作品のテーマの複雑さ、そして秩序とバランスを見い出そうとする皮肉な人間の欲望を表すために、モザイクという手法を選びました。

本作を2017年7月に中国のメディアとソーシャルネットワークで発表して以来、中国全土で注目を集め、ビデオ作品は1日で約100万回再生されました。地方自治体は、グリーンピースに連絡を取り、この作品が提示した問題の解決策について話し合いました。今日では、さまざまな種類の魚が含まれるくず魚の使用法を含め、サステイナビリティを向上させ、環境への影響を最小限にするために養殖方法を変えようとする動きもあります。そして私たちは、もう一歩引いた視点から、人間の消費が環境に与える影響、経済成長に伴って消費がさらに増えると地球の資源はいずれ尽きてしまうことへ警鐘を鳴らし、一般への認識をより広めていきたいと考えています。

アーティストとして、大衆や個人の琴線に触れる可能性を持つ視覚的な美学と言葉の力を信じています。パンデミックによる経験を反映し、より個人的な視点から物事を見ながら、さまざまなプロジェクトに取り組んでいます。アートは人や物事を動かし、変える力を持っているのです。

PROFILE／ビジュアルアーティストのステフェン・チョウと、経済学者であるフイイ・リンによるデュオ。現在は、北京を拠点に活動する。これまでに36カ国で作品を制作し、ミラノトリエンナーレ、United Nations ESCAP、Lianzhou Foto、中国中央美術学院、Getxophoto、エルミタージュ美術館、シンガポール国立大学ミュージアムなど世界各国で作品を発表している。